

はばたき

NO.17



1985. 2

神戸市立王子動物園

夢を育てる

長い間の念願であった、動物科学資料館の最終計画がまとまり、春にも着工することになりました。園内の手狭な空間を利用した動物展示にはおのずと限度があり、いかに工夫を凝らしても市民の皆さんに充分満足していただけるまでには到りません。そこで、生きた動物展示だけでなく、近年発達の日ごまのような映像や音響機器を縦横に使って動物たちのふる里における生態の再現や本来持っている素晴らしい機能などを皆さんの五感をとおして体得していただくための装置など、21世紀にふさわしい数々の展示を盛りこんであります。これは、われわれの長年の夢であり、一日も早くその完成を待ち望んでいたものです。

ユニバーシアード大会が今年の夏に神戸市で開催されます。王子公園内の競技場、体育館、プールが競技会場となり、遠来の大勢のお客様を迎えることとなります。そのため、いろいろな整備がなされております。動物園東側の緑道と国鉄灘駅からの道路が美しく整備されます。

その舗装の一部に動物のシルエットのブロックが使われることになりました。動物園への道しるべとして、いつも来ている子供、初めて動物園へ来る子供がシルエットの上をピョンピョン跳ねてやって来る姿が目に見え、目に浮かびます。阪急西灘駅が王子公園駅に変わると以前からプラットフォームに幾つかの動物の絵看板があります。降りる子供、また電車で通り過ぎる子供はこの絵看板を楽しみの目で見ております。

いつの日かの動物園での楽しかった時の思い出、また次に訪れる日のことを思って目を輝やかし、嘆声を上げ、足がおどっております。

す。この子供たちと同じ思い出は誰もがたどって来た道です。大阪の地下鉄で天王寺動物園の下車駅である動物園前駅のプラットフォームには50年を経た今でもある動物のタイル絵は朝な夕なに市民の眼を童心に返らせております。このタイル絵を子供の時に見た印象が今でも鮮明に残っており、たまたま地下鉄を利用した時には思わず視線を走らせ、ほんの一瞬幼時の思い出にふけります。時代を経ても多くの子供たちに楽しい夢を与え、育ててくれた薄よごれたタイル絵の動物たちの姿に深い親しみと尊敬の念を禁じ得ません。

神戸市立王子動物園長 福岡 順三

も く じ

◆夢を育てる	2
◆「驥驥と驥驥」です。よろしく	3
◆中国の珍獣たち	
今年神戸に来る“金絲猴”とは	4
◆動物育児日記	
●シンリンオオカミのベビー誕生	6
●ヒクイドリのヒナ誕生	7
◆かわいい動物のこどもたち	8
◆飼育うらばなし	
●シロサイの結婚作戦	10
●ワニからのサインで食欲を知る	11
◆動物なぜなぜ問答	12
●ゾウはどんな声で鳴きますか？	
●ヘビもおしっこするんですか？	
◆動物もの知り手帳	13
●目のお話その2「鳥の目」	
◆トピックス	14
◆動物資料館いよいよ着工	15
◆うら表紙	
●うし年版画コンクール特別賞入賞作品	

表紙写真 ミーアキャット

(撮影 福田元二)

「^{チイ チイ}驥驥と^{シャン シャン}驤驤」です。よろしく!!

— 天津からの友好動物「果下馬」 —

昨年11月、神戸市の友好都市である中国・天津市から「^{かかほ}果下馬」という小さい馬のペアが王子動物園に贈られました。

果下馬（学名 Equus caballus）

体重70kg、体高 110cm ぐらいの小型馬

この馬は昔から中国・^{チンゾフ}広西省^{チンゾフ}壮族自治区の丘陵地帯で農耕や乗用として飼われていた中国四川馬系の馬ですが、この地方の百色地区で飼われていたのを、3年前に中国政府機関に認知され、現在、この地方以外では北京と天津の動物園でしか見られない大変めずらしい馬なのです。もちろん王子動物園に来たのは世界で初めて中国国外に出た動物です。

体格は大へん小さく、背の高さが1m余りでの馬に乗ったまま低い果物の木の下をくぐり抜けることができることから果下馬と名付けられたそうです。

性質はおとなしく、^{そしき}粗食に耐え、体力も強く、病気にもあまりかからず、子供もよく生んでくれると聞いています。今回贈られた果下馬には雄は「^{チイチイ}驥驥」、雌は「^{シャンシャン}驤驤」という名が付けられています。「驥驥」は秀れた馬、「驤驤」は軽快に走るという意味で、どちらも良い馬に付けられる名前です。

日本にも在来馬（昔から日本にいた馬）がお

ります。現在、果下馬の隣に展示しているトカラ馬がそうですが、この馬も中国四川馬系といわれています。昔中国からやって来て、日本に子孫をのこした馬ですが、現在、天然記念物に指定されている大切な馬なのです。昔、日本でもこの馬が果下馬と呼ばれていたようです。

現在、中国で果下馬と呼ばれる馬が日本の王子動物園に贈られ、トカラ馬と隣りどうしに住んでいるということは、大昔に仲間と別れて日本にやって来た馬、トカラ馬と再会できたことは本当に不思議なできごとです。

この果下馬は天津市園林管理局の高玉山処長を団長とする護送団によって運ばれ、動物検疫完了後の12月4日に王子動物園キリン舎前で、大勢の幼稚園児らが出席して贈呈式が行われました。今では神戸の気候にも慣れ、元気で人気者になっており、今年7月から開催されるグリーンエキスポ'85への出展のため調教が行われています。

（権藤真禎）

速報！果下馬のベビー誕生！

2月22日午前6時ごろ、果下馬の雌「^{シャン}驤驤」が赤ちゃんを生みました。体重17kg、体高66cm、雄の赤ちゃんで「^{チンゾフ}驥驥」と名付けました。大へん元気で、早くも人気者になっています。



▲果下馬の贈呈式（59年12月4日）

◀「驥驥」(左)と「驤驤」(右)

中国の珍獣たち その①

今年神戸に来る“^{キン シ コウ}金絲猴”とは…



「金金」雄

昨年8月“金絲猴”の借り受け交渉と飼育の詳細を調査するため、初めて中国を訪れました。それまで“金絲猴”の姿形については、写真や話で、すでに承知しておりましたが、既刊の図鑑で調べたところ、あまり詳しくは記述されていません。ただ、英名ではGOLDEN HAURED MONKEYと黄金色の毛を持つ猿と表現しております。図鑑での説明は、イボハナサルとかシシバナザルと命名されており、「生息地が1年の大半が雪におおわれた高山で調査も捕獲も困難なため、その生態は良く分っていない珍獣の一つで、飼育例も少ない」云々とか記述されておられません。現在中国においても主要な動物園

でのみ飼育されており、ジャイアントパンダと同様に国家管理の第一級保護動物として大切に扱われております。

天津動物園の猿猴館で金絲猴の“^{チンチン}金金”と初対面をした時の印象は、非常に美しい猿と感じました。愛らしい顔立ちと美しい長い金髪を持った14歳の男盛りの“^{チンチン}金金”は、それにふさわしい落ち着きと偉厳を体に現わしておりました。しかし、性来のおとなしい性格からか、飼育の担当者には非常によく懐いておりました。さらに、近づいてよく見ると、愛敬のある白い顔面、口唇両端にイボ様の突起、利口そうな眼、身長ほどもある長い尾、黄金色の毛色も部位により長短と濃淡があります。新参者にも落ち着いたところで、当時の陳園長と一緒に寝室に入り、好物の園

内産リングをやることにしました。最初は多少警戒の色を示しておりましたが、すぐに慣れたのか手を伸ばしてリングを欲しがりました。その所作は思ったより温順でその反面デリケートな神経を感じさせました。さしずめ人間なら深窓の育ちというところでしょうか。雌の“^{フエイフエイ}菲菲”は特にその感が深く、非常な恥らいを持っている様でした。

“金絲猴”のふる里は、ジャイアントパンダやレッサパンダとほぼ同じ中国の内陸部四川省を中心にした1,500m~3,000mの高山の樹林地帯で、温順な性格ながらその行動は非常に敏しょうで、樹々の反動を利用すれば30m位は樹間



「金金」雄

を跳躍するとされており。野性での食性は、果実・木の若葉や若い枝を常食としております。また、「金糸猴」は樹上生活からも察せられるように、木の葉を食べる猿の仲間として分類されておりますが、コアラの様に特定のユーカリの葉しか食べないというのではなく、比較的日本にも多い、「アキニレ」「ヤマグワ」や「エンジュ」の葉を好んで食べます。「金糸猴」が何時、神戸に来てても良い様に、これらの木の葉は、すでに近くで調達出来るように準備をしております。その他、天津動物園では、園内で栽培しております。リンゴ、モモ、キュウリ、ナスなどの果物や果菜類とトウモロコシ団子、甘味の少ないビスケット、ラッカセイ、ヒマワリの種を1日4回に分けて与えております。西瓜は、非常に好物だそうです。また食べ過ぎに注意が必要です。また、日本の夏は、天津よりも湿度が高く、十分な睡眠を取らず必要から寝室には空調設備を入れて十分な安眠と健康保持に努め、120日間を無事に過ごさせ、元気な姿で天津へお返しするよう細心な準備を天津動物園の指導を受けながら進めております。

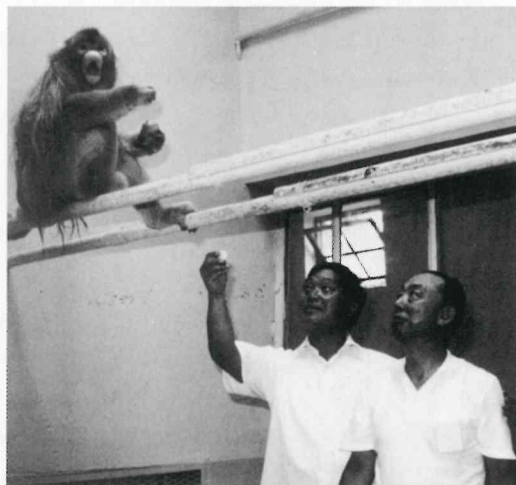
中国は非常に広大な国であります。南北 5,500km、東西 5,000kmもあり日本の約26倍もある広さです。シベリヤの大雪原からラオス、ベトナムに接する熱帯樹林、西はシルクロードで有名になったパミール高原から世界の屋根ヒマラヤに連らなり、ゆっくりと東方へ傾斜し海へ至

り長大な海岸線を形成し、内陸部には、黄河、長江の大河川、鄱陽湖、洞庭湖、太湖などと、多数の河川や運河が縦横に走り、広大な上に複雑な地形環境を形成しております。このため多種類の野生生物の生息に適し、ほ乳類は世界的なジャイアントパンダをはじめレッサパンダ、金糸猴、ターキンなど 400余種、鳥類は丹頂鶴、黒頸鶴、アジヤコウノトリなど 1,000種、両せい

・は虫類は 500種余、なかでも、長江下流には数は減ったとはいえ揚子江ワニ、多数の淡水域には 2,000種以上の魚類や淡水イルカも生息しております。上海動物園では、先頃野生象の捕獲許可を取り、半年がかりで雲南地方で象を調達して来たと言う話を聞いて驚きました。幸い中国の天津市と神戸市とは友好都市として10数年にもなります。その間両市の間では、いろいろな友好交流が行われて来ました。とくに動物園間の交流は親密で飼育技術や動物管理についての種々な問題点の研究や動物交換を度々実施して来ましたが、今後益々友好を深めてゆきたいと考えております。

中国の珍しい動物や動物園の紹介につきましては次回に譲ります。ご期待ください。

(福岡順三)



▲金糸猴にリンゴを与える陳前園長と福岡園長

動物育児日記

◆シンリンオオカミのベビー誕生

昨年10月30日、午後1時ごろ、シンリンオオカミの赤ちゃんが生まれました。王子動物園では初めてのことで、出産は屋外の運動場でした。親も初産だったため、どうしてよいのか分からず、生まれたばかりの子をくわえて、オロオロするばかりです。そうする内に、水飲み場へ子を入れ、ビショぬれにな



ってしまい、このままでは死ぬ恐れがあるため、思い切って親から離し、引取って人工は育することになりました。

雄の赤ちゃんで体重は400g、たくましく育つことを願い「武蔵」と名付けました。それから毎日朝7時から夜11時まで3時間毎に犬の新生児ミルクをほ乳びんで与えます。1回に20ccぐらいで、ミルクの温度が熱すぎても冷えすぎても飲んでくれません。飲み終わると便と尿をさせなければなりません。肉食獣は親が子の肛門附近をなめて刺激すると排便するのですが、人工の場合は人が親の代わりに脱脂綿を湯でぬらして肛門附近をこすってやります。

最初は目も開いておらず、クンクンと鳴きながら這いずり回りますが、2週間後には目は開きますが、まだ見えません。3週間ぐらいたつと、小さな歯がはえ、目も見えるようになりました。ミルクの量も増え100cc～180cc、体重は1,600gになりました。

1カ月もすると、離乳の時期になります。初めはミンチ肉をミルクと混ぜて与えますがミル

クだけ飲み、肉は残します。根気よく手で口の中へ入れてやり、だんだんと肉の味が分かるようになり食べだすようになりました。このころになると体重も2400gに増え、気に入らないことすると「ウー」となります。見かけは犬そっくりですが、やはりオオカミだなあ、と改めて思いました。

2カ月もすると、肉もよく食べ1日に800gも食べるようになり、体重も7500gに増え、見える物に興味を持ち、特にタオルやカーテンなどひらひらする物が好きでじゃれつくなど好奇心の旺盛な腕白坊やになりました。でも元気に育ってくれたのですから、うれしいことです。

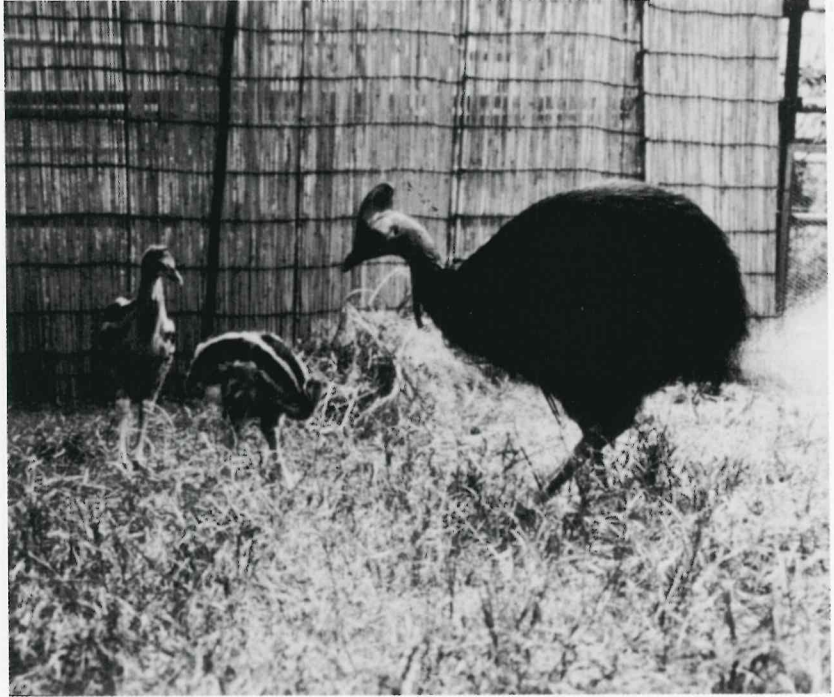
今では、両親の居る隣のオリに移しました。そして、毎日園内を散歩させます。「武蔵」にとっては楽しいひと時で、今や王子動物園のアイドルになっています。

今回は、人工で育てましたが、次には親が自分たちの力で育ててくれるような環境を作ってやりたいと思っています。

(藤井頼久)

◆ヒクイドリのヒナ誕生

ヒクイドリは漢字で「火喰鳥」と書きます。顔の色や形が燃えるような感じがするとか、又、石炭の燃えがらを食べるなどからこのような名前が付いたそうです。原産地はニューギニアやオーストラリア北部です。鳥の仲間で、最大のダチョウに次いで大きく、高さは約1メートル、頭と首を除いて全身が黒い羽でおおわれ、頭にはかぶとのような骨質の冠があり、顔から首にかけて青色、そして首から赤い肉垂れがあり



ます。ダチョウと同じように翼が退化して飛ぶことができませんが、走ることは得意で、時速40kmぐらいで森の中を走り回る、といわれています。

王子動物園にはオーストラリアヒクイドリが番(つがい)で飼っていますが、昨年2羽のひなが生まれ、順調に育っています。

昨年4月27日から産卵が始まり、約1カ月間に7個の卵を生みました。ところが、4個目までは1~2日後に雌親が食べていたことが分かり、5個目からは卵を取りあげ、5月24日から雄親に卵を抱かせ、雌親を分離しました。それ以後この雄親は順調に抱卵し、49日後の7月21日に1羽、同月16日に1羽のヒナがめでたくかえました。

ヒクイドリは雄が抱卵し育児をするといわれていますが、今回の雄親も過去に卵をかえした経験があるため、育児もこの雄親にまかせることになりました。ふ化直後の体重は430gと400g、羽の色は親と異なり、薄茶に黒のしま模様

があり、ちょうどイノシシの子の「ウリ坊」とよく似ています。生まれて3週間後までは雄親から全く離れず、寝る時は親の羽の下(特にお尻の方)にもぐり込み羽の間から頭だけ出しているかわいい姿がよく見られました。

1カ月を過ぎ、体も大きくなるに従って、時々親から離れて行動するようになり、その行動範囲も次第に大きくなりましたが、育児にたずさわる父親は片時も目を離さず、危険な時は連戻します。こうして、順調に大きくなり、6カ月を過ぎた現在では、もう親に近いぐらいの大きさに成長し、寒さの厳しい冬も元気に走り回っています。

このヒナの成長を見てつくづく感心したのは父親の愛情と育児に献身的であったことです。雨の日も風の日も約1カ月半にわたって卵を暖め、ヒナがかえってからは自分ほろくにえさも食わずヒナのためにえさを探してきてはヒナに与える姿には頭が下りました。

(佐々木稔蔵)



シンリンオオカミ
ベビー「武産」
(59年10月30日生れ)



かわ

▲コクチョウのひな(2羽)
(60年1月21日生れ)

ヒマラヤグマのベビー(2頭)
(59年12月5日生れ)▶



Ⓔ

(撮影：福田元二・谷岡正之)

カラカルのベビー(3頭)▶
(59年11月30日生れ)



い動物のこどもたち

▼果下馬のベビー「^{ファーファー}驊驊」(60年2月22日生れ)



飼育うらばなし

◆シロサイの結婚作戦

三郎とナナ子は今年でともに約15歳になるシロサイの夫婦です。王子動物園には7年前にやって来ましたが、2頭の間には未だに子供ができません。仲はそれほど悪くないのですが、三郎の方が少しおしとやか過ぎるようだという担当者の評です。隣にいるカバの多産夫婦と見比べてはため息をついているのが日課のようになりました。

しかし、見ているだけやったらあかん。なんとかしよう、というYさんの提案でいくつかの試みが計画されました。ひとつはその気にさせるためのホルモン剤注射で、同時に行動の変化を調べるための観察を毎日行うことにしました。またホルモン注射の効果をみるため尿を採ってエストロゲンという発情ホルモンも計測することになりました。そして来年には、やる気のない三郎から精液を採って人工授精もやってみようという話まで出たのです。

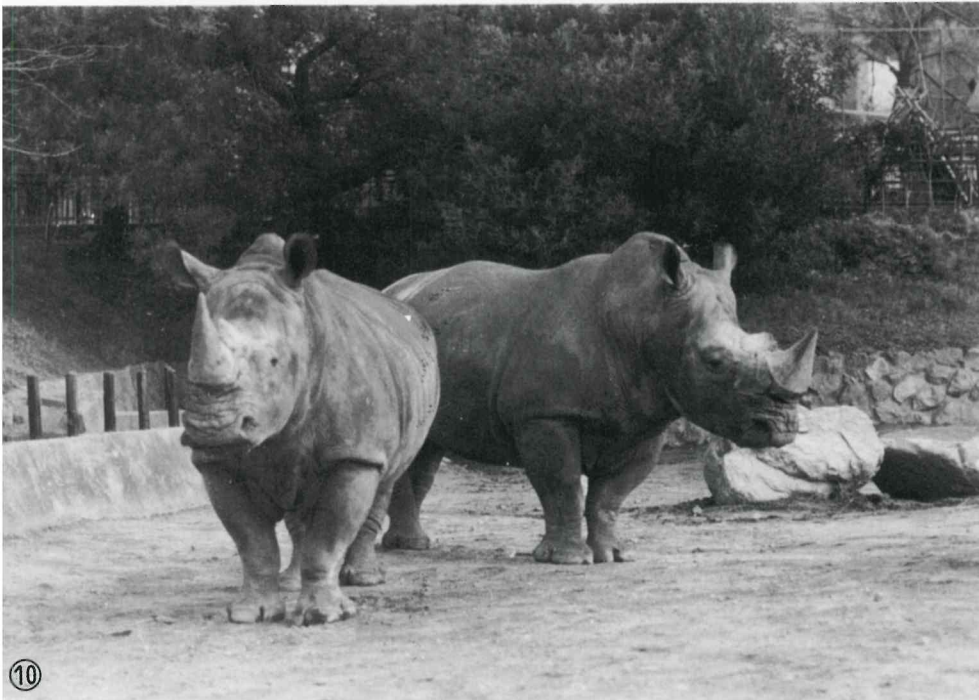
準備が整ってよいよ注射をうつ日が来まし

た。行動調査と尿検査は一週間前からすでに始めています。サイの皮フは硬く、どこにでも針をさせるといえるものではありません。お尻の囲りがやわらかそうやで、というYさんの指示に従がいナナ子のお尻に後からそっと近づき、注射針をブスッとさした——と思ったのですが案の上硬い皮膚に針は曲ってしまいました。それでも何度かの失敗の後、嫌がるナナ子をなだめて注射をすることができ、同じように三郎にも成功しました。

さてこれでやる気がでてくるやろ、と私達は楽しみに毎日観察を行ったのです。しかし、次の日もまた次の日も2頭の行動に変化は見られません。いつも通りただゆう然と餌を食べているだけです。尿中の発情ホルモンは順調に高くなっているのですが、ナナ子はそ知らぬ振ります。まるで「ホルモン剤ごときで私が変わりますかって」とでも言いたげに、時おり横目で私をにらむのです。

こうして何も起こらないまま2か月がたってしまいました。やっぱり自然が一番やなあ、という当然のことを今また思っています。

でも私達はなんとかしてあのかわいいサイの赤ちゃんを見たい。そやから三郎もナナ子も注射なしでがんばってや。たのむわ!!(村田浩一)



◆ワニからのサインで食欲を知る。

ふつう動物のエサは毎日欠かさず与えなくてはなりませんが、ワニやヘビは違います。食欲がない時にはいくら与えても見向きもしません。10日以上1カ月も食べないこともよくあるので、いま食欲があるかどうかを見分けてうまく食べさせることが飼育員の大切な役目、いや腕の見せどころといえましょう。

今、私はワニやヘビの顔を見ながら近づくだけで「エサが欲しい！」というサインをはっきりと知ることができます。その確率はおおよそ90%位にもなりましたので、これまでに試してきたワニやヘビへの飼育心得を少しまとめてみました。

〔飼育室温〕

太陽熱とガスとで室温を保っていますが、室温は、(冬) 27~28℃ (夏) 28~30℃

つい先日のことです。ワニのプールを洗うため、バケツに洗剤を入れて行くとワニたちはスーと潜って遠ざかります。そのあと同じバケツに馬肉を入れて行けば、こんどはカイマンもイリエワニも水面に顔を出して近寄ってくるのです。

「あれ！」バケツの中味が分るみたいです。

こうしたことは六年前に太陽舎(爬虫類、夜行性動物)が完成しワニやヘビを飼育しはじめた頃には見られなかったことです。

私達の姿を見るとサッと潜って姿をかくして、なかなか顔を見せませんでした。

そこで少しでも落ち着かせようとワニやヘビたちにも呼びかけて飼育するように心がけていきました。

すると、次第にワニたちも人を見分け、私たちの気心を知るようになって、エサが欲しい時、欲しくない時をはっきりと態度で示しましたのです。

それにしてもバケツの中味がどうして分かるのでしょうか、何を見て気心を示してくるのでしょうか、不思議でなりません。

そこで少しばかり、私の飼育態度を整理してみますと次のようなことが考えられます。

〔掃除のときの態度〕

- 同じバケツでも洗剤のときは軽々ともっています。
- それに肉ばさみの代りに掃除用の道具をもっています。



- また私の視線が汚れているガラス面やプールの床にばかり向けられていました。
- 何よりも掃除するためにはワニたちに遠ざかってくれるよう追いたてる態度が向けられているのです。

〔エサを与えるときの態度〕

- 馬肉や鶏のアラを作業室で切る音。それをバケツに入れる音がしています。
- 肉を入れたバケツは、やはり重々しく持っているのです。
- それにバケツといっしょに肉ばさみを持っています。
- また、何よりも「エサだよ！」という気心がワニの方に向けられ、一目散に歩いているのです。
- それに「コーイ、コーイ」とワニをさそう呼びかけをしていました。

〔まとめ〕

こうしてみますと、あの鋭いタテの目で私たちをよく見ていることが分ります。また、目のすぐうしろにある、へこみの所に耳があって、物音や足音を聞き分け、私たちをはっきり見分けているのですね。やはり、係員の個性や態度を大きく示しながら、「呼びかける飼育」が大切なことは、他の動物たちと同じであることを教えてくれました。

いまでは、手ぶらの私にスーと近づき口をあけたり、肉を持つ手にとびついてくるまでになってくれました。

(亀井一成)

— 動物 なぜ なぜ 問答 —

●ゾウはどんな声で鳴きますか？

ゾウの生活はもの静かで、エサを食べる音や鼻イキ、それに大きなオナラが生活音です。4トンの体を支える足も直径40cm厚さ8cmもある筋肉の足の裏がクッションの役目をして歩く音もしません。

声をだすといえば小さなネズミやイヌ、ネコが嫌いで足元を走ったときです。バピー！、と激しく鼻からラッパ音をだしたり、機嫌をそこねたときはキュッ、キュッ、キュッと喉から声をだして嫌がります。

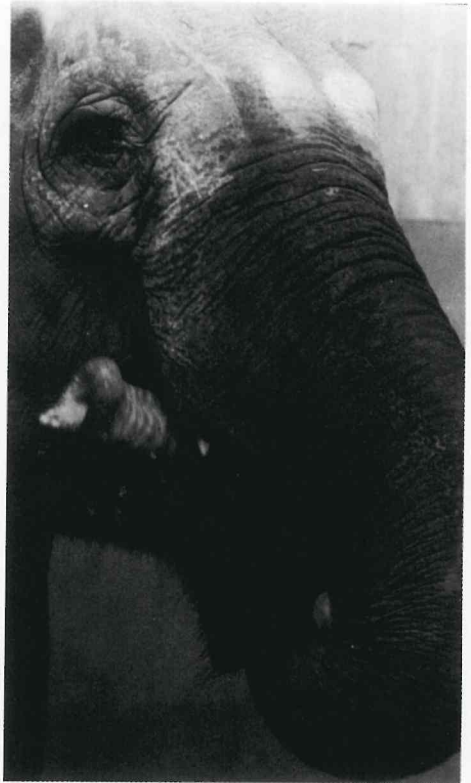
また争って負けるとウォー！と悲鳴泣きをすることもあります。

ところでこうした声は鼻からトランペットのように強いラッパ音をだすとき。と、喉（ノド）の声帯を使って声をだすときとがあるのです。

その二つの声を簡単に分けてみますと、

- 鼻先からラッパ音をだすときは相手を威嚇するとき。(怒ったとき)
- 喉の声帯をつかって、キュッ、キュッ、とかゴロ、ゴロ、と声をだすときは、悲しみや、喜びの感情を現すときのようなようです。

つまりゾウは鼻と喉の二種類の声をもっているといえるのです。

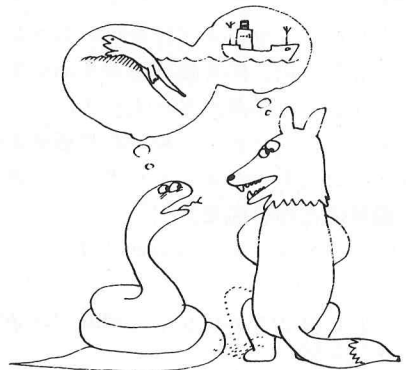


(亀井一成)

●ヘビもおしっこするんですか？

オオカミ「あんたらなんでばくらみたいにオシッコでえへんの？」ヘビ「出ますよ！」オオカミ「うそや、シャアッて流してるとこ見たことないで」ヘビ「そんな下品なんとちがう、オシッコやもん」オオカミ「そしたら、どんなやねん」ヘビ「白いかたまり」オオカミ「なんやそれ」ヘビ「そやから、オシッコが白うかたまってるねん」オオカミ「ようわからんわ」ヘビ「あんね、わたしら体の中の水をすぐ外へ出さんと何度も利用するんよ。そのうち濃くなったオシッコは水分の少ない形で体の外へ出てゆく。それが白い尿なん」オオカミ「へえー、なんでやろな」ヘビ「原始的なんよ。むかーし、海から陸へ上って生活するようになった動物がいたの。それが私らの祖先やけど、まだまだ水からはなれられなかったから体の中に水をためたの」オオカミ「体の中に海をもてるようなもんやね」ヘビ「そう！そやからそうかんたんには捨てられへんの」オオカミ「なんかこう、ぼくも体の中の海を感じてきたなー」

(村田浩一)



動物もの知り手帳

～なんでも知っちゃお!～

目のお話その2「鳥の目」

夜の森の王様はフクロウ。音も無く暗い森の中を飛び回り、ネズミなどの小動物を狩ってたくましく生きています。昼間は小鳥達の天国。

木の実や昆虫を忙がしくあさり、美しいさえずりで私達を楽しませてくれます。

それでは夜に活動するフクロウの目についてお話しを始めましょう。

フクロウの眼は人間と同じように顔の前に二つそろって付いていますね。これは人間と同じように対称物（獲物）の位置や距離がわかるようになっているのです。（双眼視といいます）

ほとんど他の外敵から襲われることが無いいため後方向が見えなくても良いようにできています。そのかわり、耳が非常によく聞こえることと、首が自由に動かせるので顔を真後ろに向けることができます。眼球は管型（望遠鏡型）でレンズが大きく、集光能力が強くてできています。又網膜には色を見分ける錐状体細胞が少なく、鳥特有のこの細胞内に有る色付きの油球も1色ですので、夜は色彩のはっきりしない世界ですから色を見分ける能力が少なくてもよいようにできているのですね。そのかわり、光を感じる桿状体細胞が非常に多いので、人間が物を見るのに必要な光量の10～100分の1の光量でも物を見ることが出来ます。

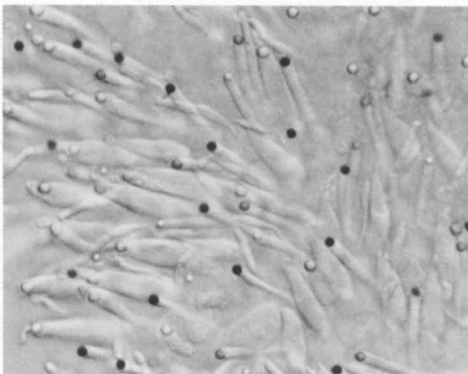
つぎに昼間に活動する小鳥はどうでしょうか。目は人間とちがって顔の左右にはなれて付いています。頭を忙がしく動かして餌をついばんでいますね。これは顔のすぐ近くの木の実をついばむわけですから、遠くの物の位置や距離をあまりはっきり知る必要が無いようにできています。そのかわり外敵に襲われることが多いので、人間やフクロウとちがって、上方向や顔の後方向まで十分に見えるようにできています。（これをパノラマ視といいます）

昼間は美しい色彩の世界です。この色彩豊かな風景の中から、おいしそうな赤い木の実をさがさなければなりません。このため小鳥の目の網膜にはフクロウとちがって、色を見分けるための錐状体細胞が非常に多いのです。

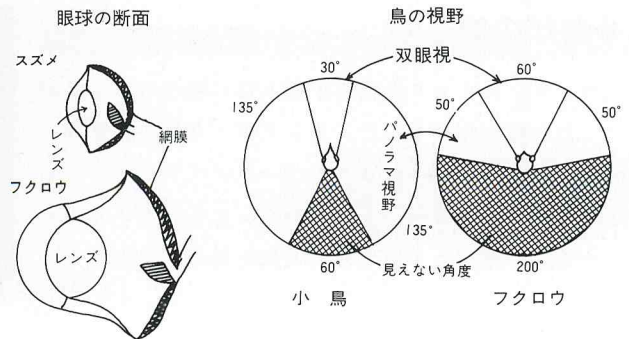
それから、この細胞の一箇、一箇の中に赤い色の油球とか、ダイダイ色、黄色、うす緑色のあざやかな油球が入っています。この網膜のしくみは人間や哺乳動物にない独特のもので、色のコントラストを強くするフィルターの働きと、集光能力を高める働きをするものと考えられています。このため私達人間が見ている色彩と少しちがった色彩を見ているものと云われています。光に感じる桿状体細胞はフクロウと反対に極端に少ないので夜は物が大変見にくいのです。

皆さんも知っているように、小鳥達は朝日が登る前の明るいころからにぎやかにさえずりますが、夕方うす暗くなるともう寝ぐらに帰ってお休みをします。夕方になると物が見にくくなる人のことを鳥目の人といいます、小鳥の目の働きぐあいから出た言葉なのですよ。

（権藤眞禎）



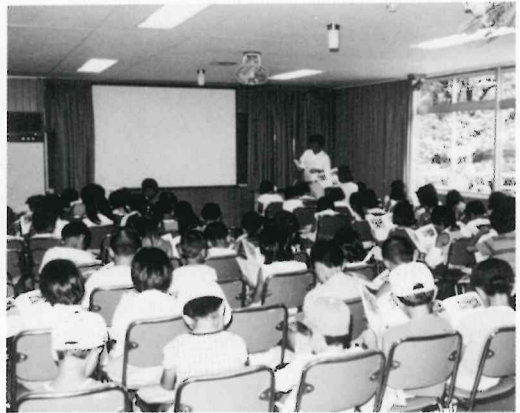
▲色を感じる細胞（スズメ）



トピックス (59年7月～60年1月)

◆第14回サマースクール開催 7月21日～31日

今回のテーマは、フラミンゴと夜行性動物。話のあと映画を見たり実際に動物舎を見学したりして、参加した500名の市内小学生の好評を得ました。(写真▶)



◆神戸の動植物園企画行事実施

神戸市の5施設(王子動物園・六甲山牧場・森林植物園・須磨離宮公園・須磨水族館)が共同して8月23日には、神戸の動植物園バスめぐり、7月21日から8月31日の期間は、スタンプテリングを実施しました。いずれも多数の参加者を得、成功のうちに終了しました。



◆「王子の森の動物家族写真展」開催

さんちか通路アドウィンドウで、11月1日から1ヶ月間、動物たちの親子の写真を中心に展示しました。

◆^{さばえ}鯖江市の友好動物預かる。 10月から

福井県鯖江市に中国の北京より贈呈されたレッサーパンダ、アオカケイをはじめとする動物たちを獣舎が完成するまで、当園が預かることになりました。(写真◀)

◆ウシ年賀状版画コンクール開催

昭和60年のエトである牛をモデルとした版画を募集、2535点の応募の中から、優秀作品137点を選出し、1月15日には三宮勤労会館で表彰式を行いました。

◆新年の催し物

ウシ年にちなんで動物園正面入口に親子のウシを形どった花壇を作りました。又1月2・3日の両日は、今年神戸市で開催されるユニバーシアードとグリーンエキスポ'85のマスコット、ユニタンとキンちゃんのぬいぐるみが来園し子供たちの人気を集めました。(写真▶)



(槇原忠史)

動物科学資料館いよいよ着工！

昭和62年春に完成オープン



動物たちの生態や習性、構造などの動物知識を楽しみながら学ぶ「動物科学資料館」は昭和62年春のオープンを目指していよいよ着工されますが、その基本構想をお知らせしましょう。

◆**建設場所と大きさ** 園内遊園地北側にある旧閑学校舎跡地で、敷地は約 6,300㎡、本館の建物は 2,800㎡で鉄筋コンクリート造平家建、屋上は庭園と休憩所になります。又、この資料館に接してペンギンとカワウソ舎 340㎡も同時に作られ、さらに約2500㎡の芝生広場なども整備されます。

◆**内容** 資料館の内部には6つのゾーンがあります。

●**展示ゾーン** この資料館の中心になるゾーンで、「生きる」をテーマに自然に力強く生きる野生動物の暮らしの様子や体の機能、習性を8つのコーナーに分けて立体模型や映像、音響などの装置を使い参加しながら楽しく分かりやすく解説展示します。中でも導入部のジオラマ「ゴリラの森」や動物のエサや食事風景が見られる「アニマル・レストラン」などが人気を呼びそうです。又、王子動物園のかつての人気者、ゴリラの「ザーク」などのはく製の展示や、スタディーコーナー、Q & Aコーナーもあります。

●**学習ゾーンとホールゾーン** 将来約3万冊の動物関係の図書や資料が閲覧できる図書室やビデオライブラリーが設けられ、さらに、400人が入れる舞台付きのホールも作られ、映画会や講演会に使われます。

●**休憩ゾーン** ペンギン、カワウソ舎に接して休憩室が作られ、ガラス越しに水中を泳ぐペンギンやカワウソを見ながら休憩できます。

●**その他のゾーン** 動物の壁画や案内所、売店のあるエントランスホール、はく製や標本を保存する取蔵庫や工作室、さらに会議室や管理室などの管理ゾーンもあります。

◆**その他の施設** この資料館の西側に接してペンギン舎とカワウソ舎が新しく作られます。ペンギン舎には冷房室も設けられトンネルを通して見学することができます。さらに南側一帯に芝生広場を作り、屋上庭園と共に遠足や家族連れのお弁当広場に利用していただけます。

いよいよ今年3月に着工し、昭和62年3月には完成しオープンする予定です。新しい施設として人気を呼びそうです。どうぞご期待ください。

(谷岡正之)

◆動物園ガイドができました。

動物たちの表情豊かな写真を中心にした楽しいガイドブックです。園内売店で発売中。

B5判、14ページ、オールカラー 一冊 200円



うし年賀状版画コンクール特別賞入賞作品

サンテレビジョン賞



御影高1
井上信男

神戸新聞社賞



摩耶小6
小西雄一

神戸市立王子動物園長賞



豊岡小1
左村心

神戸市長賞



神戸市長
小野田みや子

神戸王子動物園協会賞



長坂中1
生田和也

神戸市動物愛護協会賞



西落合幼
たなかみと

神戸市教育委員会賞



西灘小4
仲田和幹

上段(右)より

神戸市長賞
神戸市・主婦……………小野田みや子さん

神戸市立王子動物園長賞
豊岡小・1年……………庄村 心さん

神戸新聞社賞
摩耶小・6年……………小西雄一さん

サンテレビジョン賞
御影高・1年……………井上信男さん

下段(右)より

神戸市教育委員会賞
西灘小・4年……………仲田和幹さん

神戸市動物愛護協会賞
西落合幼稚園……………たなかみとさん

神戸王子動物園協会賞
長坂中・1年……………生田和也さん

◆編集後記◆

動物たちも、人も、待ち望んでいる春がもう手の届くところまでやって来ました。これからは動物たちもベビーラッシュ、本号の原稿を締め切った後にも続々と生れました。次号で紹介したいと思います。今年は動物科学資料館の建設やグリーンエキスポ'85への金絲猴の展示など多忙になり話題の多い年になりそうです。今後ともどうかご期待下さい。

(編集室)



はばたき 第17号

昭和60年2月25日発行

編集：神戸市立王子動物園
TEL. (078)861-5624

発行：神戸王子動物園協会
TEL. (078)801-5711
神戸市灘区王子町3丁目1

印刷：梶原出版印刷合資会社